



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して
Author(s)	酒元, 謙二
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(21): 71-75
Issue Date	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44532
Rights	

「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞して

2016年度「キャリア形成入門」担当：酒元謙二

2016年「キャリア形成入門」の授業を前期4クラス後期4クラス担当させていただきました。1・2年生（一部3年生）対象の共通科目ということもあり全体では年間600名を超える受講生があったかと思います。今回幸運にも「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を頂きました。併せて上記タイトルに従って寄稿の機会を頂きましたので実践から学んだ内容を中心に、日頃の思いをそのままに以下に書かして頂きます。慣れない原稿作成ですので読みづらい点もあるかと思いますが、目を通していただいた方にとって少しでも参考になれば幸いです。

<2つの教育目標を指針として>

◆URGCC：琉球大学としての「7つの修得目標」

⇒①自律性 ②社会性 ③地域・国際性 ④コミュニケーション・スキル
⑤情報リテラシー ⑥問題解決力 ⑦専門性

◆社会人基礎力：今後より必要な能力として国によって示された「3つの力」

⇒①前に踏み出す力 ②考え抜く力 ③チームで働く力

「キャリア形成入門」の授業設計におきましては、上記の2つの目標に加え「入門」というクラス名から、導入として位置づけられているといった点にポイントを置いて作成しました。授業の中心となるプログラムは（これまでほとんどの学生が受講したことのない）「CIS行動学」という独自の学習支援プログラムです。

<「CIS行動学」について>

「思考力×行動力」を中心とした学習で、生活内の行動体験・実践と大学内の座学の組み合わせで構成される授業です。一般的には「やる気・判断力・行動力」（コンピテンシー）の変化・成長を引き出す授業です。県内4大学では毎年1000名を超える学生が「キャリア教育」関連の科目として受講しています。

◆CIS行動の定義◆

- ① 日常生活で出会う様々な場面において、変化を意識し
- ② その目標（目的）の「社会性と利益」を高めるため
- ③ 一歩深く・広く考えて、自分らしい相違・工夫をし
- ④ 思いやりを持って行動し、「より良い変化」を創るコト

※C：コミュニケーション、I：イマジネーション、S：センスの略

<授業計画作成について>

以下は 2016 年度「キャリア形成入門」の概要です。(本レポート用に一部修正してあります)

①オリエンテーション 「CIS 行動学」のねらい・海外インターン・評価基準等
第 1 部：自己の行動特性を知る・CIS 行動を学ぶ・「挨拶」実践を通して潜在能力を引き出す
②「CIS 行動」Ⅰ 自己の行動特性を知り、意識の変化・成長をめざす
③「CIS 行動」Ⅱ CIS の構造・行動の「価値・方法・着手点」を学び実践へ
④「CIS 行動」Ⅲ 「ワンランクアップの挨拶」からコミュニケーションへ
⑤「CIS 行動」Ⅳ 今、沖縄社会・企業が求める「人材・能力」を知る
⑥「CIS 行動」Ⅴ 「社会人基礎力」・自己の変化と成長手段と「CIS 行動」
第 2 部：高度な「CIS 行動」に挑戦（※金城先生担当）
⑦「CIS 行動」Ⅵ 「CIS 行動」の高度な挑戦⇒海外インターンシップ
⑧「海外に学ぶ」自律Ⅰ 体験者が語る⇒海外インターンシップの魅力と価値
⑨「海外に学ぶ」自律Ⅲ 社会理解（沖縄・日本の国際化と海外職場体験）
⑩「海外に学ぶ」自律Ⅳ 自己理解（自分らしい生き方と仕事）
第 3 部：大学の価値と魅力を知る・大学の 4 年間何を学び・同行動するかを考える
⑪「地域が求める人材」Ⅰ グループワークとチームワークの違いを体験する・学ぶ
⑫「地域が求める人材」Ⅱ 企業 13 社の魅力と可能性を分析、企業の読み方を学ぶ
⑬「地域が求める人材」Ⅲ チームと企業人で直接語る、「求める人材」の実例
⑭「地域が求める人材」Ⅳ 大学 4 年間の価値を知る（これからの「CIS 行動」）
まとめ：社会人として求められる力を知り、自律の為の行動を開始する
⑮「キャリア形成入門」振り返りと自己成長（スパイラル）活動のスタート

◆基本構造とストーリーの組み合わせ

※基本構造：教育（学習）目標に合わせ、15 回の授業全体を 3~5 のテーマに分けて段階的に構成、目標の達成を目指します。通常は変化しない授業の基本形です。

※ストーリー：15 回のプログラムの「流れ」と考えています。各段階の学習テーマの達成を第一目標にしますが、クラスの人数・男女比率、学年・学部などの特性を活かした各回の反応を見ながら、少しでも高い「行動意欲と学習力」を引き出せるように毎回のプログラムを微調整し 15 回を進めていきます。

◆2016 年度「キャリア形成入門」クラスの 4 つのテーマ

テーマⅠ：自己の行動特性と可能性を知る

テーマⅡ：高度な「CIS 行動」への挑戦

テーマⅢ：大学 4 年間の価値と魅力を知る

テーマⅣ：地域が求める人材（能力）を知る

◆授業の実践とポイント（注意点）

- ①主として“「知識を変える」のではなく「意識を変える」”ための授業
- ②学生にとって「腑に落ちる」「具体性がある」「行動に転化できる」内容とする
- ③行動することの「価値・魅力・可能性」と同時に「不安」の軽減につながることを伝える
- ④学生自身が日常の中で実践できる、行動の「方法」と「着手点」を明確に示す
- ⑤「キャリア形成入門」の（行動体験）導入教材として「挨拶」を活用する
- ⑥⑤を通して「自分が変わる」「周りを変えられる」（方法と成果）を体験・実感する
- ⑦「挨拶」を着手点として、コミュニケーション・チームワークの向上を引き出す。
- ⑧結果として、「自ら考えて行動する」（社会人基礎力の高い）人材の基礎を育成する
- ⑨可能な限り、学生自身が自覚できる変化・成長の「形」を創り出す
- ⑩終了後も「自ら考えて行動」（自己成長スパイラル）を継続したくなる授業を目指す

<授業を実践して気づいたこと・学んだことそして効果⇒2例>

◆ケース I：嫌だった「座席指定とトーク」が繰り返す中で楽しみに変わった
 ・以下の（A）は授業が始まる前にパワポで出される指示ですがこの後、授業の最初の約10分、4~5人のグループを作り「1週間の“行動体験”の振り返り」についてフリートークを行います。この指示とトークのおかげで「入門クラス」は1~3回目くらいまで多くの学生にとっても評判が悪いようです。「こんなクラス、単位を落としてもいいからずっと休もうと思った」などがその代表的な声です。しかし4回目頃の授業から最後まで驚くほどの逆転現象が見られます。以下は多くの学生から聞かれる逆転後の代表的な声です「この授業では、学部・学年が違うなど、普段は話せない人と話ができ友達をどんどん増やせるので大学がとても楽しくなった」そしてこの「小さな行動の転換」を実行した学生の多くが、意識転換のキッカケとして上げるのが（B）の言葉です。

（A）

（B）

<座席について>	1 現状に対する結論 1
<p>学部の違う人、話したことがない人</p> <p>学年の違う人良く知らない人と</p> <p>隣に(座席の前後に)座って下さい</p>	<p>「不安だから行動出来ない」 のではない</p> <p>「行動しないから不安」 になる</p>

⇒気づき：実は多くの学生は「行動」に対する高い意欲を秘めているのではないか、しかも本人自身がそのことに気づいていない可能性があると思われる。

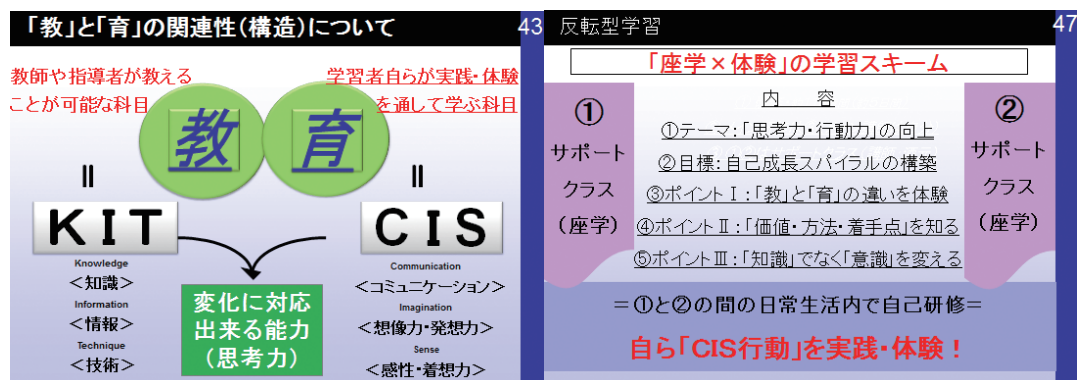
⇒効果：学生自身、思い切って声をかける勇気を得、「友達が増える」楽しさを知る

◆ケースⅡ：時代に逆行、手書きの「振り返りシート」

・毎回、1週間の「CIS 行動」体験（B）の振り返りと各自の体験の共有を目的として、授業の初めに（4~5人のグループで約10分間）グループトークがあります。その準備の為に手書きによる「振り返りシート」の記入を（5分間）行います。IT化が進む中、時代に逆行しているなど反対意見も多くありましたが、その記入の目的から手書きにこだわってきました。目的とは、行動体験でしか得られない「その場の空気感」とか、あるいは体験者本人だけが受ける「感触」とか言ったもの（A）を伝えることであり、「手書き」でならそれが表しやすく、トークでも伝わりやすいと考えたからです。このことは「CIS 行動」を伸ばすのにはとても大切だと思っています。

(A)

(B)



⇒気づき：明らかに PC で打つのは（例えば体験の時の興奮度など）違う形の表現となり、その後のトークでも（臨場感があるなど）効果が表れているようです。

⇒効果：「シート」に書いた内容を中心にトークすることで、初めから話が活発になり又「行動体験」が体験者の感情を交えて伝えることで、お互い次の行動意欲につながっている。（回を重ねるごとに学習効果の向上が見られました）

具体的で詳細をお伝えするのは以上の 2 例とし、（紙面の都合上）以下には、個人の意見として、「気づき」のあった代表的な項目（ポイント）だけを記します。

- ①「まず自分たちで考えさせる」そして「行動する」学習方法は効果的と考えられる
- ②ただし行動することの「価値・魅力・可能性」を①の前に伝えることが重要
- ③行動を引き出すには、学生が実感できる範囲の「期待出来る成果・方法・手段」を伝える
- ④すべての「行動」の前に「不安」の解消・低減は必須である
- ⑤（大学の4年間の過ごし方・将来の就職など）「不安」を持つ学生は驚くほど多いことが前提
- ⑥「行動する」ための着手点は（全学生が実践できる）日常の身近なことが望ましい
- ⑦これまでの実践例から、「行動力」を高めるために「挨拶」は最も優れた教材となり得る
- ⑧学生の日常生活のすべての時間・空間が（意識を変えると）「キャリア教育の場」になり得る
- ⑨学生は「行動」したがっており、「行動する」ことで彼らは飛躍的に伸びる可能性がある
- ⑩伸びる最大の理由は「深く・広く考え・行動する」ことによる、潜在能力の顕在化である

◆本寄稿のまとめとして、受講した学生の「体験レポート」(タイトル)を紹介いたします◆

<9割を超えた学生の変化・成長⇒体験レポートから>

以下は「挨拶と自己成長」のテーマのもと、学生がそれぞれの日常生活の中で(アルバイトの職場で・大学内部活で・家庭生活内などの現場で)実践した(2~4か月間の)「CIS行動」体験レポート(A4サイズ1200字)から抜粋した14名分のタイトルです。

この背景として特筆すべきは、2012年までは平均して100名中4~5名にしか見られなかった「変化・成長」が2013年度の「キャリア形成入門」クラス生の99名中92名の学生が「変化・成長を実感した」とレポートに記してくれたことです。(以後、同比率が継続)

そのポイントは(「不安」に対する取り組みが前年度より本格化)、「行動する」ことで「不安」が軽減され同時に身近な「挨拶」をテーマにしたことで、「自分が変わる・周りを変えられる」プロセスを具体的に実感できた。言い換えれば「考えて行動した」効果を分りやすく即実感できたことのようにです。更に授業担当者として嬉しかったことは、多くの学生がレポートの最後に「キャリア形成入門」の授業終了後も「行動」を続けたいと記してくれたことです。

<以下はレポートタイトルのみの抜粋>

- ① 私は究極の人見知り、でも3か月で一回りも二回りも成長したと感じる
- ② ちょっとした勇気と行動の積み重ね、そして大きな変化へ
- ③ 意識して行動すると、こんなにも自分が変わる、周りが変わる
- ④ 不安なのは私だけじゃない、今は成長のきっかけをつかんだ自分がある
- ⑤ 実践してわかる、CIS行動の価値・活用法
- ⑥ 自分が行動することで、こんなにも生活にすぐ影響することを実感
- ⑦ 何か難しいことをしたわけじゃない、意識を変えたら・・・
- ⑧ 上手に出来ているはずのアイサツから学んだCISの価値と魅力
- ⑨ 私にできるわけがないと思い込んでいた、でも工夫してみると!
- ⑩ 大学でCIS能力を身につけ、社会が必要とする人材に
- ⑪ 自分が変わるチャンス、実践した、大学生生活が楽しくなった
- ⑫ 「なぜ、どうして、そしてもっといい方法は」を繰り返すと・・・
- ⑬ 実践する中で、「働くこと」に対する考え方や態度が変わった
- ⑭ 早く辞めたいと思ったスーパーのバイト、今はバイトが楽しい

